

# 九州産業考古学会報

第28号 2019年6月10日発行 発行元：九州産業考古学会

## 九州産業考古学会総会の開催を歓迎

前 菌 廣 幸（特定非営利活動法人北九州市の文化財を守る会理事長）



令和元年最初の総会を、当旧百三十銀行ギャラリーで開催頂き誠にありがとうございます。北九州市の文化財を守る会は、昨年当館指定管理の公募に応募し、数事業者の応募の中から審査の結果本年4月から当会場の管理運営を行っております。この建物は、皆さまご存じのとおり東京駅、西日本工業倶楽部(旧松本健次郎邸)の設計で知られる辰野金吾が主宰する辰野片岡事務所が、大正4(1915)年12月に設計したもので、当時最先端の鉄筋コンクリートで造られ大正時代の折衷様式を表現しています。位置は、旧八幡市で最初に商店街が発展した西本町一丁目にあり、江戸時代の長崎街道に面しています。官営製鐵所は、明治30(1897)年6月開庁するにあたって仮事務所や官舎を製鐵所構内の稲光地区に設置し、長崎街道に面して南門を開設、やがて南門から街道筋に銀行や商店などが次々と開業するなかに百三十銀行

八幡支店がありました。百三十銀行八幡支店は、大正12年銀行合同により安田銀行八幡支店となりましたが、同行が昭和14(1939)年11月移転新築したことにより銀行業務は廃止となり戦中・戦後の状況は不明ですが、八幡大空襲による火災は免れています。そして、昭和25年旧八幡市の所有となり戦災復興事業による道路新設で現在地へ曳家移転、その後八幡市土木課の中部事務所などを経て昭和61年2月には北九州市の有形文化財に指定されました。

市では建物の有効活用を図るため、平成4(1992)年から5年度に文化財としての補修と絵画などを展示するギャラリーとして整備し、平成5年10月1日「ギャラリー130」がオープンしました。オープン時は、現代美術関係団体に運営委託していましたが、その後指定管理制度の導入により、管理は公募制となっています。

今回当館で開かれます総会では、有意義な議論が交わされることとこれを機会に会の益々の発展を祈念致します。

## 【報告】

# 韓国炭鉱事情寸感

木元富夫（顧問）

全国石炭産業関連博物館等研修交流会なる長い名前の研究会がある（略称「全炭博研」、会長：石川孝織・釧路市立博物館学芸員）。この全炭博研は、「全国産炭地において、石炭産業の歴史と文化を後世へ伝える活動を行っている博物館や研究団体などの交流を深める」ための研究グループで、2011年からこれまで釧路、長崎、筑豊、常磐、三池、赤平（石狩炭田）、宇部で交流会を開催してきた。2018年の第8回交流会は、初めて海外の韓国江原道で行なわれることになったが、会員以外の参加も可能と仄聞したので、不肖ながら頼み込んで、10月19日から4泊5日の研修旅行に便乗させてもらった。海外の炭鉱を見る機会は珍しいこともあってか40名近いツアーになったが、貴重な現役炭鉱を見られ大いに勉強になった。研修内容は多彩かつ密度が高く、一々詳述できないが、本会の紹介を兼ねて寸感を記しておきたい（訪問地の詳細情報は末尾記載レポート参照）。

まず一連の主要見学先や交流会を列挙する。

- \*ソウルの仁川国際空港を出てから市内のソウル火力発電所を見学①
- \*ソウル石炭会館を訪問及び地下商店街レストランにて夕食②
- \*ソウルの清涼里駅から特急列車で江原道太白の古汗駅まで移動③
- \*そこからバスで移動し三炭アートメインを見学④
- \*High1 ホテルにて現地関係者を交えてシンポジウム及び交流会を開催⑤
- \*閉山した東原炭鉱跡の舎北文化炭鉱村を見学⑥

- \*1990年代の労働運動や住民運動を顕彰する記念館を見学⑦
- \*鉄岩地区を野外博物館にした鉄岩炭鉱歴史村を見学⑧
- \*太白石炭博物館（1997年開設）を見学⑨
- \*ホテル会場にて会員の研究発表及び交流会⑩
- \*稼働中の長省炭鉱を見学⑪
- \*リニューアルが進行中の長省炭鉱社宅群を見学⑫



三炭アートメイン(左上部が堅坑櫓)

特に印象深かった点について述べると、まずソウル火力発電所では、石炭火力を廃止解体し、新たに大規模な石炭LNG混燃発電所を、それも環境や景観の観点から地下に建設中であった。韓国では1971年が石炭生産のピークで、80年代から炭鉱スクラップ化が進んだと言う。日本とは二、三十年のタイムラグがある。北朝鮮の事情はどうだろうか。

朝鮮半島を西から東へ、江原道の炭鉱地帯まで3時間半の鉄道旅行をしたが、沿線に望む都市にはマンション群が林立してお

り、韓国経済の発展ぶりがうかがえた。

三炭アートマイン（「芸術鉱山」）は、つい最近まで稼働していた炭鉱の跡をアートギャラリーに改装したものである。やや小振りの坑夫弁当を食べたあと案内された旧総合管理棟のアートコレクションにはミロのヴィーナス像まであったが（もちろんレプリカ）、その御蔭で堅坑や周辺施設も残されたとなれば館長に感謝せねばならない。

High1 ホテルで行なわれたシンポジウム（同時通訳付き）と、その後いくつかのテーブルを囲んだ現地関係者との交流会の内容についてはスペースの都合で割愛する。それ以上に小生が興味を覚えたのは豪華な大型ホテルの存在そのものであった。冬季オリンピックが開かれた平昌の南方に位置する当地は、冬には零下 20 度になるとのこと。一帯は江原（カンウォン）ランドと称されているが、ホテル、ゴルフ場、スキー場などの巨大施設群が突如この山奥に誕生したのは、1990 年代に制定された廃鉱地域開発支援特別法によるもので、ホテルの開業は 2000 年だったと言う。我々一行が到着したのが週末だったからか、庭園の電飾と派手な花火で歓迎してくれた。ホテルには別棟カジノ（賭博場）への入口があり、聞くと韓国にはカジノが十何ヵ所もあるが外国人専用で、唯一ここは内国人（韓国人）も入れるカジノだと言う。中を覗いた人に聞くと、ごく普通の若者が賭博に興じていたとのこと。「劇薬の処方、最後の選択」とは言え、炭鉱町跡の再活性化策が結局ギャンブルだったとは……。

炭鉱歴史村は興味深かったが、来訪者が多いとは言えない。石炭や炭鉱と言った産業遺産の歴史的意義を訴求するのは中々難しいことだ。

韓国には現役の炭鉱が 3 つあると言うが、その 1 つ長省炭鉱で、一行のうち 15 名が地下約 1000 メートルに下り切羽まで行って

検分することを許された。小生はその夢を叶えられなかったが、それでも地上でケージが櫓を上下するのや、巻き上げ機が唸りを立てて回転するのを見たのには感激した。この炭鉱は廃業が告知されているものの、労組や地域からの抗議を受けて閉山が先延ばしされているとのことで、見学が辛うじて間に合ったことになる。

かくて見所は多かったが、勉強の方も本会名称が「研修」を冠している通り極めて熱心なツアーであった。現地の方々とのシンポジウムや交流会を初めとして、会員同士の研究発表会に至っては、フィールドワークから戻って夕食を取ったあと、7 時から 11 時まで休憩なしに議論が交わされる次第とあっては、初参加の小生などは目を回してしまった。御世話を頂いたツアー事務局の方々には、小生如き不心得者の飛び入りはさぞかし迷惑であったことだろう。またハングルだらけ（むしろ「だけ」）の街を老生が軽装でうろうろするのは難しいと痛感した。本会から貴重な機会を頂いたことに心より御礼申し上げる。

なお、本会事務局の諸氏で組織される産炭地研究会(JAFCOF)のリサーチペーパー「韓国江原道および台湾北部の炭鉱関連施設巡検」(2017年)がweb上の次のアドレスで読めることを付記する。

(<https://core.ac.uk/download/pdf/144469650.pdf>)



長省炭鉱の現役堅坑櫓



## 【お知らせ】

### 令和元年度総会について

巻頭言にあります通り、九州産業考古学会令和元年度総会を北九州市立百三十銀行ギャラリーにて下記の要領で開催いたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日時：7月14日（日）午前10時30分から  
会場：北九州市立百三十銀行ギャラリー（北九州市八幡東区西本町1丁目20-2）

内容：事業報告及び計画・会計報告・懸案事項 その他

特別講演：11時20分～12時

市原猛志「第43回 UNESCO 世界遺産委員会参加報告」

見学会：13時～17時

「八幡西本町の戦災復興都市計画事業と近代建築めぐり」

（見学会参加費・資料代 500 円）

主な見学地：百三十銀行ギャラリー～（バス利用・280 円）～上重田バス停～河内水路散策（中山の田橋～傾城ヶ谷橋～指場橋～只越橋梁群～内ヶ畑歩道橋）～旧鬼ヶ原浄水場跡～九州鉄道尾倉橋梁～八幡市民会館（外観）～小伊藤山公園慰霊碑（八幡大空襲）・復興平和記念像～百三十銀行ギャラリー



河内水路・内ヶ畑歩道橋（1925年竣工）

## 【書籍紹介】

安蘇龍生『筑豊《石炭と人々の生活》』  
木元富夫（顧問）

2011年（平成23年）に、炭坑記録画として遺された「山本作兵衛コレクション」がユネスコの世界記憶遺産に登録され、2015年には「明治日本の産業革命遺産」が世界文化遺産に登録されたことは今や広く知られるところだろう。両者は深く関連しているが、いずれも田川市石炭・歴史博物館の安蘇龍生館長の寄与したところは大きい。本書は氏が多年に渡って多方面に書いた論考を集成したもので、筑豊の石炭産業史及び地域社会史を考える上で必読の一冊となっている。著者は研究生活を振り返って、「常に誰かとつながり、誰かの支援や協力のもとに、その時その時の課題に向き合い続けてきた」と言い、本書の副題にはその意味も込められている。

内容は5つのテーマに大別される。第1編・石炭と人々、第2編・筑豊産炭地と「友子」、第3編・田川地域と被差別部落、第4編・世界記憶遺産と博物館、第5編・調査抄録、である。長短合わせて20本余の論考から成るが、いずれも田川に生まれ育ち、田川を終生のフィールドワークとした著者ならではの、郷土への思いに溢れている。

館長としての著者は、展示を通じて台湾の炭鉱博物館＝新平蹊煤礦園區との友好館協定を実現した。今年（2018年）に入って、「日本と台湾の〈記憶〉遺産」をテーマとする「日台交流シンポジウム」が開催されたが、その直前に著者は逝去され、会場に安蘇館長の姿を見ることが出来なかったのは参会者一同にとって痛恨の極みであった。凶らずも遺著となった本書について、氏から更に教えを頂戴することは叶わない。いよいよ本書を味読したい所以である。（弦書房、2018年、本体4500円）

## 【お知らせ】

### 産業考古学会 2019 年度全国大会（中間市大会）について

産業考古学会の 2019 年度全国大会を福岡県中間市にて開催、九州産業考古学会が共催いたします。会員の研究発表・プレッシャー参加もできますので、ぜひとも皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。

全体期日：2019（令和元）年 11 月 8～10 日

プレッシャー：11 月 8 日 13:00～17:00

研究発表大会：11 月 9 日 10:00～17:00

見学会：11 月 10 日 10:00～15:00

研究発表大会会場：なかまハーモニーホール会議室

（〒809-0014 福岡県中間市蓮花寺 3 丁目 7-1）

10:30～12:10 研究発表 1

13:00～14:30 記念講演（熊本地震における産業遺産の被害と復旧状況（仮題）  
（堀川運河文化財調査報告）

14:40～16:20 研究発表 2

16:20～16:50 鉦滓煉瓦研究報告

17:30～ 懇親会（八仙閣中間店）

プレッシャー（8 日）13:00 スペースワールド駅集合

見学地：世界文化遺産・官営八幡製鐵所旧本事務所視察及び修理状況に関する説明、他の行程については現在調整中。

見学会（10 日）：9:00 中間市歴史民俗資料館集合

見学地：なかまフットパスと合わせた遠賀堀川運河見学会等を予定。他の行程についてはプレッシャーと同じく調整中。

実行委員長：下山要（中間市観光ボランティアガイド「なかまガイド」の会会長）

副委員長：伊東孝（産業考古学会前会長・日本イコモス国内委員会技術遺産小委員会主査）

実行委員：清水憲一（田川市石炭・歴史博物館研究所長）、濱田 学（中間市企画政策課長）

木元富夫（九州産業考古学会顧問）、砂場一明（九州産業考古学会事務局長）、

尾崎徹也（北九州市の文化財を守る会副会長）、時里奉明（筑紫女学園大学教授）、

大石道義（九州産業考古学会会長・西日本短期大学特任教授）

市原猛志（産業考古学会担当理事・中間市文化財専門委員）

詳しい内容は、産業考古学会ウェブサイトにて逐次更新予定。また研究発表申込み等については、専用メールアドレス（2018nakama@sangyo-koukogaku.net）へお問合せください。

◇◇会報原稿募集（会員外でも応募できます！）◇◇

『九州産業考古学会報』への積極的な投稿をお願いします。募集原稿は【報告】（700字～1400字程度）や【研究発表】（1400～2800字程度）、【お知らせ】（400字以内）など。いずれも図表を入れる場合文字数要調整。また紙面の都合上、文面レイアウトに関して編集側で変更する場合があります。投稿に関する詳しい情報は学会ウェブサイト及び事務局まで。

■■会報第28号・目次■■

【巻頭言】

九州産業考古学会総会の開催を歓迎  
 ……………前菌廣幸 1

【書籍紹介】

安蘇龍生『筑豊《石炭と人々の生活》』  
 ……………木元富夫 4

【報告】

韓国炭鉱事情寸感 ……………木元富夫 2

【お知らせ】

産業考古学会2019年度全国大会  
 (中間市大会)参加のお願い …………… 5  
 今後の予定 …………… 6  
 会費納入・ご寄付のお願い …………… 6

【お知らせ】

令和元年度総会について …………… 4

今後の予定		会費納入・ご寄付のお願い
7月 14日	年次総会(北九州市立百三十銀行ギャラリー)	当会は年会費を個人会員 2000 円、団体会員は 5000 円それぞれ徴収しています。当会の趣旨をご理解頂き、会費納入或いはご寄付の程、どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。  会費納入・寄付先口座(一覧) ・ゆうちょ銀行 17430-88882241 キュウシュウサンギョウコウコガツカイ ・福岡銀行大牟田支店(店番 691) 普通 1914369 九州産業考古学会
8月 12日	八幡郷土史会講演会「八幡製鐵所」	
9月 21 ～29日	まちかどの近代建築写真展 in 北九州市立百三十銀行ギャラリー(煉瓦建築写真展)	
11月 8～10日	産業考古学会全国大会(中間市大会)	
12月		

<編集後記>

ここ数か月身辺非常にあわただしく準備に追われている。ひとつが5ページでも掲げている今年の学会全国大会、次にこれは全国大会でも報告予定である、科学研究費補助金の中で研究を進めている鉄鉱滓煉瓦関係の海外調査、さらに私個人の単著として『産業遺産巡礼(日本編)』というタイトルの出版企画を進めていることだ。全国大会前には皆様に出版のご報告ができると思うので、ぜひともご購入を検討いただきたい。(市原)

九州産業考古学会事務局 〒811-3430 福岡県宗像市平井二丁目12-1 砂場一明 気付  
 TEL&FAX : 0940-36-5501 E-mail : k-sunaba@jcom.home.ne.jp URL : http://kias.kilo.jp/index.php  
 学会ML希望者は、上記アドレスもしくはWeb担当者(iota\_titanus@yahoo.co.jp)まで連絡願います。